

留萌郡小平町に3月26日に漂着したザトウクジラについて

北海道大学准教授 松石隆(45)

■漂着の経緯

受報日時:2010年3月26日10時19分

場所:留萌郡小平町北海道留萌郡小平町鬼鹿広富

小平町字鬼鹿広富(道の駅「おびら鯨番屋」より羽幌方向へ約200m地点、バス停第一広富前)

緯度経度:44-09-1.12N 141-39-11.09E (WGS84)/[地名]

発見日時:2010年3月26日7時10分

発見時状況:[死亡] 一般住民が小平町水産係に通報。通報を受け、役場経済課商工水産係及び生活環境課環境衛生係の担当者が午前8時45分頃現地を確認する。

26日(金)は、クジラは陸から約200m地点で浮遊している状態であった。が27日(土)に沿岸に寄り、回収作業準備を開始。29日(月)に回収、移動。

鯨種:ザトウクジラ *Megaptera novaeangliae*

体長:

性別:

■ザトウクジラについて

学名 *Megaptera novaeangliae*

IUCN-LC 世界的には十分な個体数が居る

日本海での発見例はきわめて希、北海道日本海側での発見は初めて

分布域 北極海をのぞく全海域

顎と頭部に多数のこぶ状突起があり、フジツボが付着していることもある。下顎の先端近くには肉質の隆起がある。体の前から2/3のところのこぶの上に背びれがある。胸びれが長い(体長の1/3に達する)。尾びれは大きく、辺縁部はぎざぎざしている。体色は濃灰色ないし黒で、喉の部分は白い。うね(14-24条)は幅広く、へそまで達する。ヒゲ板は短く(0.7m未満)、黒い。剛毛はこげ茶色で、ヒゲ板は各側に270-400枚。多くの海域で沿岸性。長距離の回遊をする。2-10頭の群をつくる。

4.1-4.5mで生まれ、7.6-8.5mで離乳、成体は13-15m(30-40t)。

オーストラリア、ハワイ、小笠原、沖縄などでホエールウォッチングの対象となっている。豪快なブリーチングが特徴。背びれと尾びれの白斑によって個体識別が行われている。

日本沿岸には年に3~4個体が漂着するが、沖縄、鹿児島、高知、三重、などに多く、大半が太平洋沿岸である。

日本海で漂着したのは1974年~2008年に日本鯨類研究所が記録した63件中

1986年12月12日 富山県氷見町 ICR-ID:M-001 12m 性別不明混獲

2002年05月01日 京都府与謝郡伊根町 ICR-ID:M-343f 13.35m♀ 混獲

2005年01月22日 石川県七尾市 ICR-ID:M-722f 7.9m♀ 混獲

の混獲3件のみで、北海道日本海側では初めて。漂着も初めて。

道内太平洋側での報告は

1988年08月04日 根室市 ICR-ID:M-016 11.7m ♀ 漂着

1998年09月11日 根室市 ICR-ID:M-139 6.45m ♀ 混獲

2003年12月02日 函館市川汲(噴火湾) ICR-ID:M-547f 9m ♂ 混獲

2004年05月 北海道紋別郡湧別町 ICR-ID:M-968 体長性別不明 漂着(頭骨の一部)

■今回の調査について

北海道内の鯨類研究者、博物館・水族館等、ナチュラリスト、一般市民などによって組織されている「ストランディングネットワーク北海道」が調査を実施。

【調査項目】:

- 1 外部形態詳細測定・撮影
- 2 DNA 標本採集
- 3 胃内容物採集
- 4 臓器等の採集
- 5 皮脂の採集
- 6 その他、参考となる可能性のある標本の採集

【研究目的】:

- 1 日本海に生息するザトウクジラの生物学的特徴を明らかにするために、外部形態、DNA 情報等を調査する。
- 2 胃内容物から何を食べていたのかを調べ、漁業との競合の有無を明らかにする。
- 3 臓器等を採集し、国立科学博物館等で詳細な病理分析をして、可能ならば死因を特定する。(腐敗等により困難が予想される)
- 4 皮脂・肝臓等に蓄積される化学汚染物質等を愛媛大学等で詳細に分析して、海洋の汚染や成体濃縮の実態を明らかにする一助とする。
- 5 学生の鯨類解剖体験、トレーニング。

【調査の予定】

調査開始:3月 日 時 分、終了 日 時予定

【調査員】:

北海道大学准教授 松石 隆、
国立科学博物館 山田格
東京農業大学講師 宇仁義和
国立科学博物館 研究員 名
北海道大学鯨類研究会 名
ストランディングネットワーク北海道会員 名
合計 名